

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：村上由紀 所属：広島市立広島特別支援学校 記録日：平成30年2月28日
キーワード：学習支援、生活支援

【対象児の情報】

・学年

高等部3年生 男子生徒

・障害名

知的障害 注意欠損多動性障害 (AD/HD) 反抗性挑戦障害

・障害と困難の内容

- ・ 語彙理解が低く、内容を聞き取って理解することや、思いを言葉にしてスムーズに伝えることに困難がある。
- ・ 言葉の想起に時間が掛かることがあり、話したいことをスムーズに伝えられないことがある。
- ・ 読み書きが苦手なため、漢字が覚えにくく、読み書きが多い学習では時間が掛かったり、意欲が低下したりする。
- ・ やるべきことを記憶に留めておくことが難しい。聞かれると思いつくことが多いが、忘れていたりする。
- ・ 決まりより自分の思いを通そうとすることがある。

【活動目的】

・当初のねらい

- 1 自分の特性やそのための手立てを知ったり、自分の行動に対してどのようなことが起こりうる可能性があるのかという知識を増やしたりして、社会に出ていく上で正しい行動をとることができる。
- 2 コミュニケーション能力を高め、社会人として生活していく上で助けとなる人間関係を形成することができる。

・実施期間

- ・ 平成29年5月中頃～平成30年2月

・実施者

- ・ 村上由紀

・実施者と対象児の関係

- ・ 副担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ・ 卒業まで、児童養護施設で集団生活をしている。
※ 以下、施設を「家庭」、施設の職員を「保護者」と記載する。
- ・ 一般就労を目指しており、卒業後は寮やグループホームなど、一人暮らしをする予定。

(1) スケジュール管理

- ・ 登校後、宿題を提出したり朝学習をしたりするなどの活動が定着せず、やらなかったり忘れていたりする。
- ・ 家庭では、宿題や洗濯などの活動が定着せず、やらなかったり忘れていたりする。

(2) 読み書き表現

- ・ 小学校中学年程度の漢字や、生活の中で目にする頻度の多い漢字は読むことができる。想起することが難しいため、書くことができる漢字は小学校低学年程度で、平仮名を使用することが多い。書く活動が苦手で、日記は1文程度、ほぼ平仮名で書く。
- ・ 漢字の習得が進んでいないため、漢字の意味と関連付けて熟語の意味を理解することができず、「貯金」や「道順」など、普段の生活でよく聞くような言葉の意味も分かっていないものが多い。また、言葉の意味や、言っていることの内容が分からなくても聞き流したり、分かっているように返事をしたりすることが多い。

(3) コミュニケーション

- ・ クラスメイトなど、友達とかかわりたい気持ちは大きいですが、本人からの会話でのかかわりは少なく、パンチの寸止めやくすぐりなど、身体的、行動的なかかわりが多い。会話では、「あれよ、あれ・・・」「なんつったっけ・・・」と言葉の想起が難しい場面が多くあり、聞き手が選択肢を提示して聞くと、「そう、それ。」と思い出することができる。
- ・ 家庭では、かかわりすぎてけんかになるなど集団生活をしている子どもたちとのトラブルが多い。
- ・ 好ましくない友達との交流等が過去にあり、保護者は心配している。仲良くしてほしい相手に仲良くしてもらうために、決まりより相手の望むことを優先する。相手が自分のことをどう思っているかは、表に現れる態度で理解しているところがある。

(4) 情報の理解、活用

- ・ 明文化されていない暗黙のルールに気付きにくく、自分なりに解釈して誤った認識で過ごすことがある。
- ・ 口頭で説明するとその場では従うが、決まり自体を理解していないので継続して行動できないことがある。
- ・ 説明を受けて納得できる決まりもあるが、該当場面では想起できないことがある。
- ・ 学校では、自分の思いを無理に通そうとする場面はないが、家庭では、決まりより自分の思いを通そうとすることが多い。思いが通らないと、物に当たることがある。

・活動の具体的内容

(1) リマインダー、カレンダーを使用したスケジュール管理

やるべきことや言われたことを忘れずに実行するために、リマインダーを利用し、登校時間や就寝時間などのスケジュール管理に取り組んだ。リマインダーは、保護者の困りをもとに本人に話をし、本人の操作で設定を行った。カレンダーは、最初は日記を書くツールとして使用した。自分で予定を書き込むようになり、3週間ほど先までのスケジュール管理を行った。ただ、リマインダーに関して、セットしたことに対しては忘れずにできているが、自分からセットし活用するまでに至っていない。

(2) 授業や家庭学習にタブレット型端末を活用

苦手を補って学習意欲を向上させること、また学習の定着を図るため、授業や家庭学習にiPad、iPhoneを使用した。授業では、「読むこと」の困難、「書くこと」の困難に対して、iPadを活用した。「読むこと」に対しては、アプリ「もじかめ」で書面の文字を取り込み、読み上げ機能で読み上げることや、アプリ「ふりがな」に手書き入力で漢字を書き、読み方を調べることを行った。「書くこと」に対しては、国語科で以下のような活用を行った。



もじかめ



ふりがな

<国語科「調べたことをまとめよう」> …6月

好きな県について調べて新聞を作成する学習では、友達から話を聞いたことがあった京都を選択し、抹茶スイーツについて画像検索を行った。画像検索で得た情報をもとに、教師が作成した穴埋め問題に手書きの記述で回答した。回答を見ながら記事にまとめるためのワークシートは、アプリ「PowerPoint」を使用した。(資料1) 文章の量は多かったが、フリック入力と漢字変換の手軽さで前向きに取り組むことができた。画像の挿入操作やサイズ調整なども自分で行った。「PowerPoint」のスライドを印刷して貼り付け、新聞を完成させた。



抹茶、玉ろ、京番茶、煎茶、ほうじ茶、玄米茶があります。京都は这其中で抹茶が有名です。抹茶のデザート作り方とおいしい抹茶スイーツの店を紹介します。デザート作り方は下の記事を見てください。京都に行ったら、京はやしや三条店の抹茶スイーツがオススメです。「抹茶ゼリーソフト」はお茶とセットで(1,026)円です。つるんとした、手作りの抹茶ゼリーのようにのうこうでなめらかな抹茶ソフトクリームをのせました。「抹茶ぜんざい」はお茶とセットで(1,296円)ほっとひと息した時に抹茶の香りが上品に広がる温かなぜんざいです。

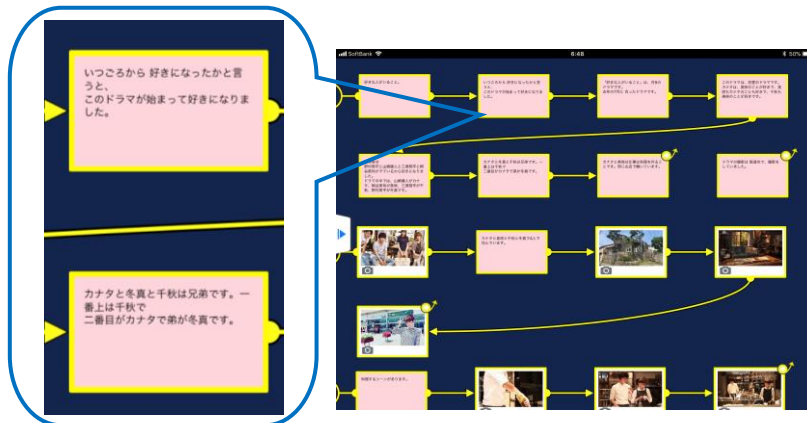
資料1 「PowerPoint」で書いた記事

<国語科「好きなことの作文を書こう」> …1月

自分の好きなものを紹介する作文を書く学習では、アプリ「ロイロノート」を使用した。以前見ていたドラマ「好きな人がいること」について書くことを選択したが、記憶から内容を想起することが難しかったため、動画や写真を見て書きたいもののイメージをもってから取り組むようにした。「いつ頃から好きになったか。」「誰がドラマに出ているか。」など教師の質問に対して記述したり、写真を見て思い出したことを記述したりして、「ロイロノート」で作文メモの作成を行った。(資料2) メモをもとにアプリ「Word」で作文を書いた。



ロイロノート



資料2 「ロイロノート」で書いた作文のメモ

(3) コミュニケーションの機会を増やすため SNS を活用

周りの大人や友達とコミュニケーションをとる力を向上させ、社会人として生活していく上で助けとなる人間関係を形成することにつなげるため、SNSでのやり取りを行った。最初は担任と保護者を相手として、アプリ「Bytalk forSchool」を使用した。「Bytalk」がつながりにくいときには、iPhoneのメッセージ機能を利用した。BytalkforSchool 12月からアプリ「LINE」の活用を開始し、友達ともやり取りを行った。



BytalkforSchool LINE

(4-①) 好ましい行動を増やす手立てとしての「信用貯金」

家庭と学校で、好ましい行動を記録し、本人と保護者に分かりやすい形で信頼される行動を積み重ねていくことをねらいとし、「信用貯金」に取り組んだ。アプリ「てつだって!」を使用して好ましい行動を評価するようにしたが、本人の「なりたい自分」に向けた取組ではなく、教師の「望む姿」に向けた取組となっていたことで、効果的な活動にならなかった。



(4-②) 「やりたいこと」計画書づくり

上記の「信用貯金」が効果的な取組とならなかったこと等中期までの反省をもとに、本生徒の願いを起点として学習を進めるため2学期から「やりたいこと」計画書づくりに取り組んだ。アプリ「GoogleMaps」や検索アプリ等で情報収集をする力、アプリ「ロイロノート」やメモ機能を支援としてやるべきことを行う力、計画を相談するコミュニケーション力等の向上をねらいとした。

<お楽しみ会の買物をしよう計画> …10月 12月

自分一人で買物に行く機会をもつことができていなかった本生徒の「自分で買物に行きたい」という願いから、自宅近くのスーパーに学級のお楽しみ会で使用するお菓子を買うに行く計画を立てた。教師が質問項目を「ロイロノート」にスライドで作成しておき、それに答えるスライドを本人が作成する形で計画書を作成した。(資料3) 約束を教師と確認したり、学級の友達が希望したお菓子を画像検索で調べたり、スーパーの場所を「GoogleMaps」で調べたりすることに取り組んだ。当日、学級の予算とは別に保護者から受け取った図書カードで違うものを買ってしまおうということはあるものの、お楽しみ会の買い出しは、正しいものを予算内で買い、寄り道することなく帰宅することができた。連絡のタイミングや、お釣りの管理など、計画書に沿って行動できた。積極的に「ByTalk」で報告が届き、楽しさと達成感を感じられる活動となった。(資料4) 12月にも同様に計画を立てたが、天候不良のため、実行はできなかった。



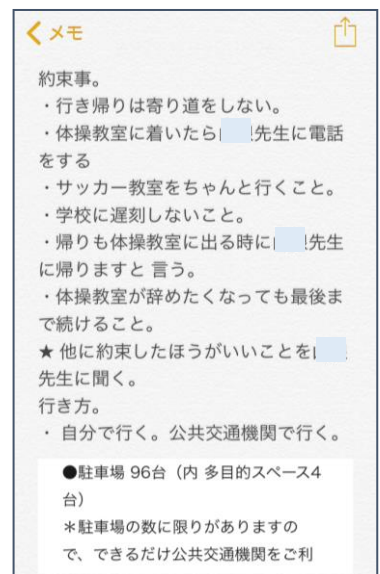
資料3 「ロイロノート」で作成した計画書



資料4 買物後に届いた「ByTalk」の内容

<体操教室に行こう計画> … 1 2月

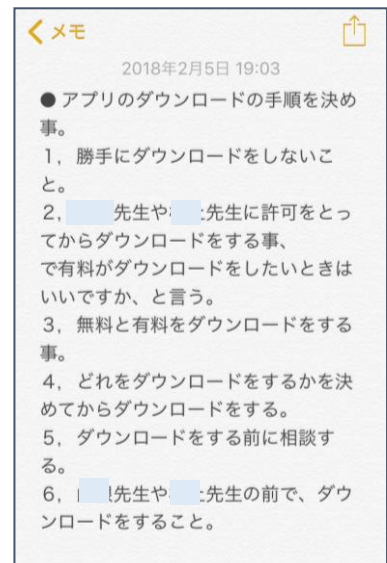
余暇活動として、以前から興味があった体操教室に通う許可を保護者からもらうために計画を立てた。こういうときには何に気を付けなければいけないか、と本人に聞き、答えた内容を本人が iPhone のメモ機能にメモする形で作成した。本生徒が普段持ち歩いているのが iPhone であることと、「ロイロノート」では全体を表示したときに文字が小さく読めなくなることから、iPhone のメモ機能を使用した。保護者に伝える約束事を書いたり、アプリで検索した体操教室への行き方のスクリーンショットを貼り付けたりすることに取り組んだ。(資料5) 保護者からも追加の約束を聞き取って許可をもらい、初めての場所に公共交通機関を利用して一人通うことができた。総合グラウンド内のどの辺りに目的の建物があるか、「GoogleMaps」の地図で確認したから分かった、と本人が話していた。乗るバスの経路や時刻は、計画書には書いていなかったが、「GoogleMaps」の検索結果をスクリーンショットで保存し、確認していた。



資料5 体操教室の約束

<アプリをダウンロードしよう計画> … 2月

自分で使ってみたいアプリを検索するようになり、ダウンロードしてみたいアプリを伝えることが増えた。AppStore 機能制限の解除許可を得るため、ダウンロード時に気を付けることをメモ機能に書くよう伝えると、自分で考えて提案することができた。(資料6) これまでの経験から相談しなければならないことを理解しており、箇条書きで分かりやすく記述することを習得していることが分かった。



資料6 ダウンロードの約束

・対象児の事後の変化

(1) 生活の見通しをもつためのスケジュールの自己管理

iPhone のカレンダーに自分から予定を打ち込み、スケジュール管理をするようになった。(資料7) 最初は時間を適当に打ち込み、その日の予定のみを確認していたが、3学期には開始時刻を正しく入力するようになった。(資料8) 1日単位の大まかなスケジュールの見通しから、時間単位の見通しへと本生徒の意識が変化してきているのではないかと感じる。



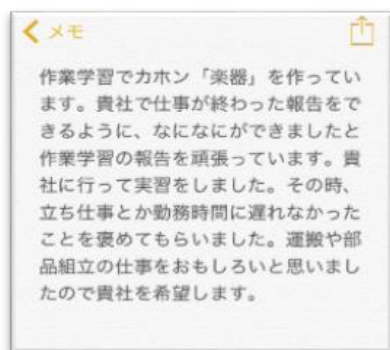
資料7 文化祭の時刻を適当に記入



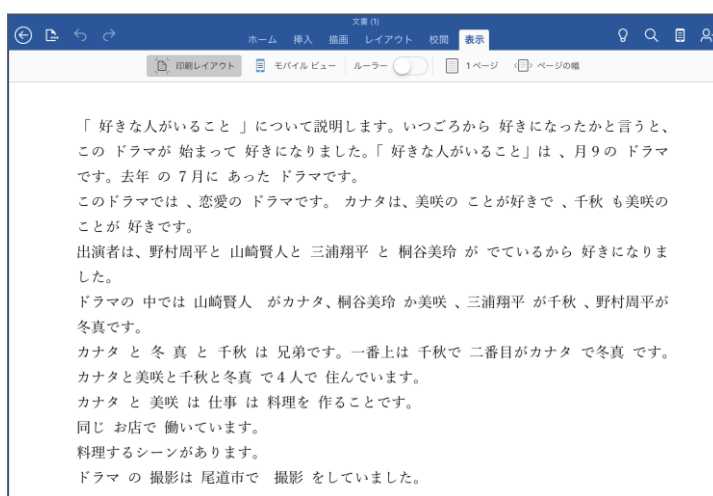
資料8 体操教室、サッカー教室、通院の時刻を正しく記入

(2) 読み書きを伴う学習への抵抗感の軽減

フリック入力が使用でき、漢字変換もできることで、書く学習にも前向きに取り組む姿が増えている。履歴書の下書きは、メモ機能を使用して行った。(資料9) 前述「調べたことをまとめよう」の新聞作成では、教師の文章を穴埋めすることで作文していたが、「好きなことの作文を書こう」では、自分で文を考えて書くことができた。(資料10) 読むことに関して、短い文を読むときに、読みの支援を活用することができる。ただ、長文は口頭でのコミュニケーションでも理解が不十分になるため、内容理解の面では読み上げ機能の使用は有効な支援にはならなかった。本生徒には短文で伝えることが必要な支援であることが分かった。



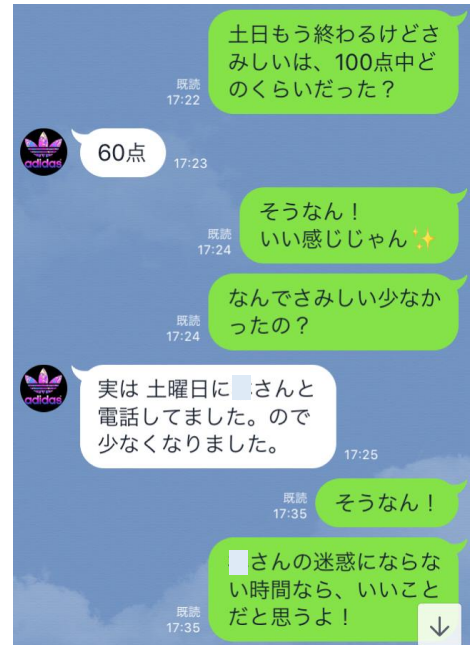
資料9 履歴書の下書き



資料10 「Word」で書いた「好きなこと作文」

(3) コミュニケーションをとる力の向上

SNSでのやり取りを通して、4月当初より会話の理解度が上がり話す内容も増えたと感じる。SNSを利用し、言葉が残る形でのやり取りを繰り返したことで、見返して内容を理解しながらやり取りをする経験を重ねた。その経験を通して、相手の話す内容を理解しながら会話をする、分からなかったら聞き返す、ということができてきたように思う。4月当初は学級の友達に対して、タオルを目の前で振る、くすぐるなどの言語ではないコミュニケーションをきっかけとしてかかわろうとする姿が多かったが、話し掛けることでかかわるようになった。以前は友達と長い時間続けて話す姿を見かけたことがなかったが、2月の職場実習時には友達と1時間程度通話し、寮生活の寂しさを減らすことができたことと本人が言っていた。(資料1 1) SNSでもやり取りが長く続くようになり、文章を理解する力が向上したと感じるが、本人が少し複雑な内容を伝えたいときには通話を手段として選択しており、本人にとって伝えやすく理解しやすいコミュニケーションは「文字を入力すること」より「話すこと」であることが分かった。写真や画像で伝えた方が分かりやすいことの使い分けもできており、「LINE」のホーム画面に音楽を添付したいことをスクリーンショット画像で伝えてきた。設定の仕方も、スクリーンショット画像で理解し、側で教えなくても自分で設定することができた。(資料1 2)



資料1 1

実習中、寮で休日を過ごしたときのLINE



資料1 2 LINE を利用してスクリーンショットでやり取りする様子

(4-①) 「信用」という言葉の理解

「信用貯金」は効果的な取組とはならなかったが、正しい行動をとることで信用される自分になっていくことは本生徒に伝わり、「信用貯金貯まったね。」や「それは信用貯金が減ると思うよ。」などの教師の言葉で、実行は難しくても行動を考えることができた。学級の友達も、「信用貯金があるからいいよ (待つよ)。」など、本生徒に対して言葉を掛けることがあるので、信用されるサイクルのイメージをもつことはできたのではないかと感じる。

(4-②) 相談する力、情報活用力の向上

「やりたいこと」計画書を、保護者に考えを伝えるときの補助として活用できおり、自分で判断せず、まず誰かに相談や確認をする経験の積み重ねになっている。

また、アプリ「Google」の画像検索を、知りたいことを調べるツールとして使いこなすことができている。一つの単語だけでなく、知りたい内容の単語を複数入力して、知りたい内容を絞って検索することができるようになった。調べた内容をスクリーンショット等で保存し、必要なときに確認している。また、調べた内容だけでなく、日常生活に必要な内容を忘れないようメモ機能に自分から記録するようになった。(資料13)



資料13 ICカードの残高のメモと、寮の朝食時間のメモ

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

本人の願いに沿った支援となる活用方法を示したことで、本人なりに使いやすいよう工夫し、社会に出ていく助けとなる手段として身に付けることができたのではないかと。

・エビデンス

<根拠となる生徒自身のタブレット活用場面>

- カレンダーを使って予定を管理する。
 - ・ 施設の行事、サッカー教室、通院の予定など、自分が必要と思う予定を自分で入力している。
- 自分で撮った写真やインターネットの動画や写真を見せながら会話をする。
 - ・ 語彙が少なく言葉を想起するのに困難がある。「花火」の単語が思い出せない場面で、撮った花火大会の写真を見せ、数か月前の思い出をかかわりの少ない教師にも伝えていた。
 - ・ 学級の友達や隣の学級の教師にも、おもしろかった動画や、好きなアーティストの写真を見せて話し掛けている。
- 動画検索で、情報を調べる。
 - ・ バックグラウンドで音楽を聞きたいため、iTunes なしで iPhone に音楽を入れる方法を「YouTube」で調べていた。
- 画像検索から必要なページにリンクし、欲しい物の値段や種類を調べる。
 - ・ 自転車や靴、帽子など、欲しいものを画像検索で調べ、下のリンクから移動し、値段等の情報を得ている。
- 調べた情報を、スクリーンショットで保存しておく。
 - ・ 欲しい物の画像を保存したり、スクリーンショットでページごと保存したりしている。
- 行きたい場所の大体の位置を「GoogleMap」で検索する。
 - ・ 買物に行きたい店の場所や、通いたい体操教室の場所を調べ、〇〇の近くにある、という情報を得ていた。
- 忘れそうなことをメモ機能に記録しておく。
 - ・ 電車の IC カード残高や、職場実習中の寮での食事時間をメモしていた。

・今後の課題

本生徒は約1年間の取組の中でインターネットを利用して情報を得たり、SNSで友達とつながったり、日々スマートフォンを活用してきた。ただ、Webサイト等の年齢制限やアプリのダウンロードなど機能制限がある状態で使用していること、基本料金や通話料など、料金支払いの経験を重ねられていないことなど、卒業後、自分のスマートフォンを持ったときのために必要な学習はまだできていない。アプリ「LINE」の使用を始めてからまもなく、友達Aのタイムラインのコメント欄で友達Cと200件以上やり取りをし、友達Aを怒らせる、ということがあった。この件に限らず、今後起きるであろうSNSのマナー違反やインターネットの失敗についてその都度指導していきたいところであるが、卒業を目前に控えている。卒業後は「アフターフォロー」という校内体制があり、担任が定期的に様子をうかがうことになっている。アフターフォローを利用しつつ、電話や「LINE」でコンスタントに連絡を取り、指導を継続していきたいと考えている。困ったときに電話や「LINE」で発信することは身に付いていると感じているが、困った状態になっていることに気付くための知識が不十分であると思う。本人からの発信を待つだけでなく、状況の聞き取りをコンスタントに行っていきたい。

しかしながら、卒業後の生活を電話や「LINE」でフォローするにはもう一つ問題がある。現在本生徒が内定をもらっている職場のグループホームでは、20歳まで携帯電話の所持が禁止になっていると聞いている。連絡手段としてだけでなく、情報を得たり、生活を管理したりするために本生徒にとってスマートフォンは必要な機器であると思う。3月には職場との引継ぎ会がある。今年度の取組をもとに、iPad、iPhoneを活用した必要な支援について話をし、職場に理解をしていただけたら、と考えている。